

社会の支え手 濱戸際

「エッセンシャルワーカー」逼迫

新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大は、消防や交通、医療や介護といった現場を支える「エッセンシャルワーカー」にも深刻な影響を及ぼしている。相次ぐ感染者で社会機能の維持が危機的になってくるといふのである。一方、国の対応は追いついていない。

時
刻
刻

消防署員過半数感染も

岐阜県揖斐市の消防署員

防署では今月に入り、順次75人（出張所2カ所を除く）のうち42人が感染するクラスター（感染者集団）が発生した。消防隊や救急隊の2次代勤務が危機的状況に陥った。

隊員の最初の感染判明は14日で、その後、同じ班の隊員が発熱やのどの痛みを訴えた。16～17日に同じ班の隊員ら約30人を自宅待機とし、検査を始めた。二つの班のうち一つの機能が停止となつた。

岐阜県揖斐市長は16日の臨時記者会見でクラスター発生を発表し、「市民生活に支障がないように努力で」と述べた。

対応する」と強調した。

市消防署は、西消防署の出張所や他の消防署などによる応援態勢を決定。感染防止のため、他の消防署の消防車で消防署の前に駆け付け、交代で待機してもうら形をとった。応援職員がカバーしたのは、火災現場で統括にある指揮隊、手のひらもPCR検査を受けるため、16、17日の2日間は全面運休となつた。

社は事業終了計画に基づき、24日から全路線のうち4路線で減便を始め、当面あり、1日の乗客数は平均約400人。登記先の内勤職員2人が感染し、運転手のひらもPCR検査を受けるため、16、17日の2日間は全面運休となつた。

（新谷布典、瀬川聰）

医療・介護人繋り網渡り

持病のある人や高齢者

が確認されたが、26日には通常の体制に戻った。市消防署も頭を悩めたが、何とか業の切れた」と話す。

住民の「足」の公共交通

車両は「西消防署の開通も頭を悩めたが、何とか業の切れた」と話す。

（千葉県浦安市）の城田鉄太郎・感染症内科部長（38）はそう語る。

同病院では、自費が感染した患者らへの巡回のワクチン接種も進めしており、副反応の発熱で出勤できない人も、人繋りは継続だ。

まだ診療に制限をかけるような状態ではないが、【】の状態が一ヶ月続いたものだ。

（千葉市川市医療センター）

（千葉県浦安市）の城田鉄太郎・感染症内科部長（38）はそう語る。

同病院では、自費が感染した患者らへの巡回のワクチン接種も進めしており、副反応の発熱で出勤できない人も、人繋りは継続だ。

まだ診療に制限をかけるようない状態ではないが、【】の状態が一ヶ月続いたものだ。

（千葉市川市医療センター）

（千葉市川市医療センター）